審議会配布用　基礎調査資料　概要版（1ページ）

資料２

Ⅰ．地域特性

【自然的特性】

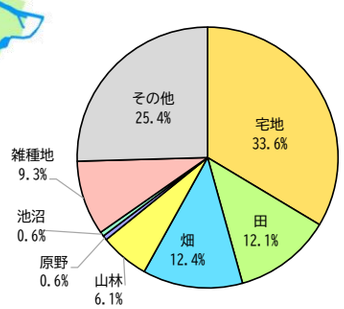
・柏市は、標高は約0m～32mのほぼ平坦な地形で、下総台地の広い台地上を中心に、市街地や里山が形成される。

・「谷津」と呼ばれる侵食谷が入り込んで台地を分断。

・利根川、利根運河、手賀沼、大堀川、大津川、染井入落、金山落、手賀川、坂川の8河川と1湖沼を有する。

・土地利用状況は、宅地が33.6%、畑が12.4%、田が12.1%（2023年度時点）。

■柏市の河川・湖沼
出典：柏市生きもの多様性プラン



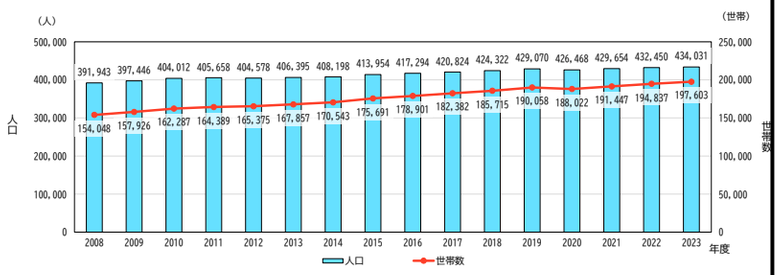
■土地利用状況
（2023年1月1日時点）

【社会的特性】

・人口は434,031人、世帯数は197,603世帯（2023年度時点）。

・人口・世帯数は増加傾向。

・高齢者人口（65歳以上）の割合は微増傾向、年少人口（0～14歳）・生産年齢人口（15～64歳）の割合は微減傾向。



■人口・世帯数の推移
（各年10月1日の値）

・ごみ処理は、1市2制度（旧柏地域と旧沼南地域）。

・総ごみ量は横ばい。

・総資源化率（総ごみ量に対する資源化率）、家庭系ごみの資源化率（家庭系ごみ量における資源化率）は低下傾向。

・市域における再生可能エネルギーは、太陽光発電の導入実績があり、導入設備容量は増加傾向。

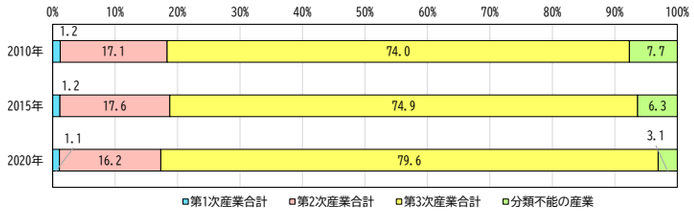
・公共交通として、鉄道、路線バス、コミュニティバス、相乗りタクシー等が運行。

・自動車保有台数は緩やかに増加傾向。

【経済的特性】

・産業大分類別就業者比率は、第1次産業は1.1%、第2次産業は16.2%、第3次産業は79.6%（2020年時点）。

・就業者数について、第1次産業・第2次産業は減少傾向、第3次産業は増加傾向。



■産業大分類別就業者比率

・農業就業者、農業経営体は減少傾向。

・水稲作付面積は2013年度比で14.9%減。

・製造品出荷額等の内訳は、食料品製造業が最も多く25.5%を占める。

・業務系延床面積(民生業務系・課税対象のみ)は増加傾向。内訳としては、事務所・店舗・百貨店が7割以上を占める。

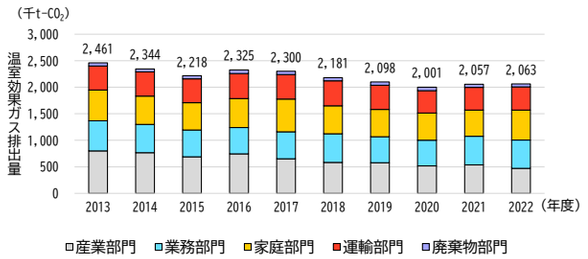
Ⅱ．柏市の環境データ

【地球環境】

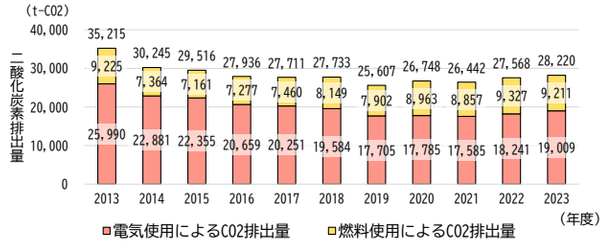
・市域の温室効果ガス排出量は2022年度時点で2,063千t-CO_2（2013年度比16.2%減）。

・市では、住宅・事業所の省エネ・再エネ設備などの導入費の補助を実施。

・市の事務・事業に係る温室効果ガス排出量は2023年度時点で28,220t-CO_2（2013年度比19.9%減）。



■市域の温室効果ガス排出量の推移



■市の事務・事業に係る温室効果ガス排出量の推移

【大気汚染】

・大気汚染に係る各種項目は概ね環境基準を達成しているが光化学オキシダントは環境基準未達成。

【水質汚濁】

・河川の BOD（生物化学的酸素要求量）は横ばいで推移。利根川や利根運河等は環境基準を満たさない年がある。

・手賀沼の COD（化学的酸素要求量）は環境基準を超過している状態。

【騒音・振動】

・交通騒音は、夜間の国道6号及び国道16号で環境基準を超過する状況が続いている。

・交通振動は、夜間の国道16号で、要請限度を超過する年がある。

【悪臭】

・悪臭に係る公害苦情は、2022年度は22件で、浄化槽の管理不備や事業場からによるものが大半。

【自然環境】

・市では、湧水量や立地条件を検討し、湧水地の整備と保全を実施。

・市では、外来種対策としてカミツキガメやアライグマの駆除を実施。

・市では、手賀沼で繁殖が拡大している特定外来生物（ナガエツルノゲイトウやオオバナミズキンバイ）について、県や市民団体、近隣自治体と協力した駆除作業等を実施。

・市では、谷津田の自然環境及び景観、生態系等の保全に協力意志がある土地所有者と保全協定を締結。

【環境学習・普及啓発・協働】

・市では、かしわ環境フェスタ等の環境イベント、指導者への支援・教材の提供、リサイクル講座、ゴミゼロ運動、カシニワ制度への支援・情報発信等を実施。

・市は、民間団体と協働して、かしわ環境ステーションを拠点とした環境学習講座・イベント、名戸ヶ谷ビオトープの管理及び観察会、増尾の森の草刈りやホタル観察会、柏市リサイクルプラザでのリサイクル教室、ごみ減量出前授業等を実施。

・柏市環境保全協議会について、70以上の事業者を環境配慮企業（かしわエコカンパニー）として市ホームページで紹介。

・市では、事業者・千葉大学と協働で、ドリームフラワープロジェクト（給食残渣からできた堆肥を使って市内小学校の花だんづくりを行う取組）を実施。

審議会配布用　基礎調査資料　概要版　（2ページ）

Ⅲ．国内外の動向

近年の、環境に関する国内外の主な動向等は下表のとおりである。

■環境に関する国内外の主な動向

区分	内容
世界	・パリ協定　・1.5℃目標（国連気候変動枠組条約締約国会議（COP）における成果） ・気候変動に関する政府間パネル（IPCC）報告書 ・**昆明・モントリオール生物多様性枠組** └ネイチャーポジティブ（生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せること）、30by30目標（2030年までに、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標） ・持続可能な開発のための教育：SDGs実現に向けて（ESD for 2030）　など
国	・**第六次環境基本計画** └環境保全と、それを通じた「ウェルビーイング/高い生活の質」が目標 ・地球温暖化対策計画　・政府実行計画　・気候変動適応計画 ・**生物多様性国家戦略2023-2030**　・**自然共生サイト**の認定開始 ・第五次循環型社会形成推進基本計画 ・食品ロス・プラスチック資源循環に関する各種法律　など
県	・第三次千葉県環境基本計画 ・2050年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言　・千葉県地球温暖化対策実行計画2030 ・千葉県地球温暖化対策実行計画事務事業編（改定第4次） ・**再生可能エネルギーの促進区域の設定に関する環境配慮基準** ・第10次千葉県廃棄物処理計画　・千葉県食品ロス削減推進計画 ・千葉県環境学習等行動計画　など
柏市	・**柏市第六次総合計画** └「皆があこがれ、住みたい・住み続けたい、訪れたいと思うまち“リーディングコアシティ”」を目指す └重点テーマの1つに「未来に備える防災・減災と気候変動対策」を設定 ・**柏市気候危機宣言** └2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとするゼロカーボンシティ宣言 ・第三期柏市地球温暖化対策計画（改定版） ・柏市役所ゼロカーボンアクションプラン ・柏市緑の基本計画　・柏市生きもの多様性プラン ・柏市一般廃棄物処理基本計画　・柏市食品ロス削減推進計画　など

Ⅳ．事業者ヒアリング

・市内事業者3者を対象に実施。

・市との協働事業に対しては前向きな意志あり。

・市に求めること：**サーキュラーエコノミー実現に向けた共同体の形成、企業同士のマッチングシステムの構築、市の事業に対するボランティア募集の呼びかけ等。**

Ⅴ．市民活動団体ヒアリング

・市内で活動する環境保全団体9団体を対象に実施。

・活動において支障となっていること・困っていること：**団体の高齢化、若い世代の参加が少ないこと、人員不足等。**

・活動に子どもや若者世代を呼び込むための工夫：**親子で参加できる活動を増やすこと、学校の環境教育への支援、子ども向けイベントの開催等。**

・市に求めること：**自然環境を損なわない開発やまちの活性化、関係各課との連携の強化、市としてのネイチャーポジティブの主導等。**

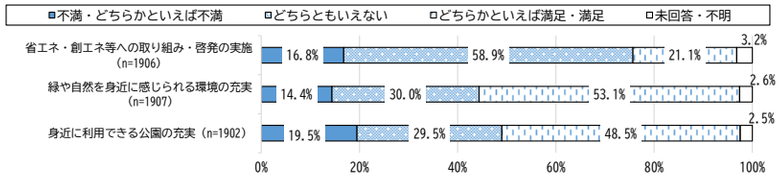
Ⅵ．アンケート

【令和6年度柏市まちづくり推進のための調査】

・柏市における脱炭素（省エネ・創エネ）への取組の満足度：「満足・どちらかといえば満足」・「不満・どちらかといえば不満」は2割で、**「どちらともいえない」は6割。**

・緑や自然を身近に感じられる環境の充実度：**「満足・どちらかといえば満足」は5割**で、「不満・どちらかといえば不満」は1割。

・身近に利用できる公園の充実度：**「満足・どちらかといえば満足」は5割**で、「不満・どちらかといえば不満」は2割。



【柏市の環境についての市民アンケート】

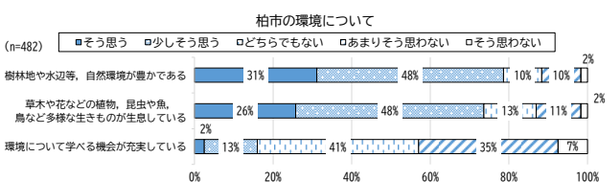
・**自然環境や生きものの豊かさ**を感じている市民が多い。

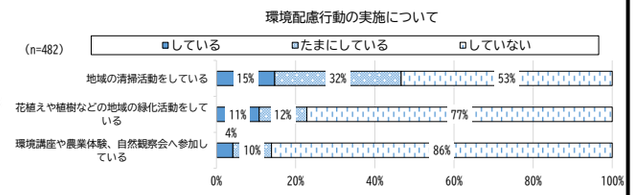
・「環境について学べる機会が充実している」は**「そう思う・少しそう思う」が2割未満。**

・**谷津田・手賀沼の保全意識や保全活動への協力意志**を持つ市民は多い。

・地域の清掃活動・緑化活動、環境講座・農業体験・自然観察会等に参加していない人が5割以上。

・省エネ・再エネ機器等を導入しない理由：**費用が高額、借家・集合住宅であるため導入不可等。**





【柏市の環境についての事業者アンケート】

・省エネ・再エネ機器等を導入しない理由：**費用が高額等。**

・事業所が環境活動に意欲的に取り組むため、市が重点的に行うべきと考える項目：**「事業所への優遇措置」「情報提供の拡充」「活動に対しての融資や助成制度」**等。

Ⅶ．総合計画策定時ワークショップ

【ワカモノワークショップ（2023年10月実施）】

・課題として挙げられた意見：**「柏市の名所や名産物の認知度が低く、特に、手賀沼が知られていない」、「柏市の既存の地域資源をどのように生かすか」**等。

・自然環境についての意見：「都市開発で緑が減っている」等。

【市民ワークショップ（2023年11月実施）】

・市民の現状認識では「まちのウェルビーイング」の評価が高く、「行政との共創のしやすさ」の評価は低い。

・最も多く選ばれた将来都市像は**「多様なコミュニケーションから広がる温かい柏」。**

・**「地域資源の活用」「行政と住民の情報共有」「多世代の参加」**を重視する意見が多数。

・自然環境については、**「自然が豊かである」「自然資源を活かしきれていない」**等の意見。

・**行政との共創**についての意見・要望が多数。